
妊娠した

32

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
妊娠した

【Nコード】
N 6 4 1 6 A

【作者名】
3 2

【あらすじ】
会社のトイレで妊娠発覚。24歳、あだ名、お嬢。試用社員。彼は浮気者。お嬢はママになれるのか。

発覚

なんだか昨日から具合が悪かったので、おまじないのように持っていた妊娠検査薬を使ったら、妊娠した。会社のトイレで。

今年大学を卒業した、24歳試用社員。本当にどうしようもない状態で、ますますどうしようもない方向に進んでしまったかもしれない。だって24歳にもなって、会社でのあだ名が”お嬢”。

とりあえず今一緒に住んでいる彼にメール。

「緊急！取り急ぎメールして！！」

……いやいや、今は忙しいときか。

「手がすいたら電話して。お願い（>|<）」

……送信。

送信してから気づく、妊娠を知ったときの表情ですべてがわかるんじゃないのか。

つづけて送信、

「やっぱなんでもない、ごめん」

失敗した。今は12時だから飲食店の彼氏は稼ぎ時、でもこれじゃ2時ごろ電話してくる。

まあ、いいか、今はそんなことはどうでもいい。とりあえず震えで仕事が手につかない。

最近、西原理恵子のまいにちかあさんを読んで、子どもが欲しいとは思っていた。さっきまで妊娠のHPを見ていた。彼氏が浮気性だから。

今になればすべてが兆候のような気がする。

さてどうするかどうするか、どうしよう。

悪いけどいきなり、うれしい、とか思えない。子どもには悪いが、でも困っているわけでもない。

おろす気はない。

一人でも育てられる。というほど私は自立していないが、彼氏がびつたり、離婚したりしたら、実家で暮らそう。結局どれだけバカ娘でも私を無償で愛してくれるのは親だ。私にそれをわからせてくれたのは親だし、その親に育てられている以上、何がおきても子どもを愛していく自信はある。

少し落ち着いてきた。私は一人で弱い。年をとるのが嫌だし、いつ死ぬべきかをいつも考えていた。変わる。

あーあ、早死にできなくなっちゃった、と微笑んで、自分がどれだけ傷ついても守ろうと心に決める。

涙が出るほど怖いけど、ああ、これは武者震いなんだな、と思う。

彼は”いきぬき”で他の女の子に会おうとする。

出会いサイトを利用している様なので、違う女の子のふりをしてメールを送った。

彼が求めているのは”秘密の関係”。

私は私のままで、メールの癖などが出ないようにしながらメール。

「彼氏がなんだか浮気しているみたいなの」

「私はそれに気づいて、彼氏にいったけど、もちろん彼氏はごまかすだけ」

「私はノイローゼ寸前でないのに、彼氏にはどうでもいいみたい」

心の声だ。

「なんで、一番大切な人が許さなくてはいけない様なことをするの

？」

「きつと彼はキミに甘えちゃってるんだよ」

「あなたはなんで？」

「気分転換だよ」

「でも私はもうぼろぼろなんだよ」

「俺だったら彼女がそうなっていたら尽くしたりするな」

「でも私はもういいの、私も遊んでやるんだ」

ちよつと面倒くさいけどやれそうな女を演出。

彼は喜んで本当の私にメールを送らずに、オンラインの私にメールを送る。私の顔を加工して写メをつくり送ったが気づかず。

結局、仲良くなつて遊びに行こうと言う事になり、待ち合わせ場所ですつちめてやろうと思つた。

彼が新宿とか池袋とかで遊ぶことを提案したので、（この場所自体目的がみえみえで嫌だし）そんなのつまらなさそう、と言つたら十九里の海に行こう、と言ひ出したのでばかしくなつてやめた。彼は日曜日は1日中寝ていて、スーパ―さえも一緒に行かない。

ちよつと彼の携帯に細工。メールが私に転送されるように設定。浮気の証拠が欲しかった。

万が一その画面を見てもばれないよう謎のフリーメールへ送り、その後自分のアドレスに転送した。

出会い系は毎日のように、たまに一気に私と付き合う前の彼女だのセフレだのにメールを送っているようだ。

私はすっかり鬱状態になる。誠実でない彼氏が許せない。でも考えれば私もぜんぜん誠実じゃない。

見なければ、彼氏は私を大切にしていることになる。

どうしようもなく寂しくなるときがあることなんてわかるし、遊び

たい気分もわかる。

闇の部分を見えて、知らない振りをしている私の手も充分真っ黒だ。

一切信じられないのに別れられない。原因をいろいろ考えるが結局は好きなのだろう。

彼は私を理解しない、つらいだけだろうと思うのだけど。

今は平気。私は幸せに向かって突き進まなければいけなくなったから。

彼氏がどんな選択をしても、大丈夫だ。

自分が我慢していればいい、そんな生き方、子どもに見せられない。強く明るくしなやかに、生きていかなくては。

別れてもお金もらえるしね。

さあ、電話がきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6416a/>

妊娠した

2010年12月10日15時06分発行